
cremation

土管(ハチ)

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

c r e m a t i o n

【Nコード】

N 8 5 9 6 T

【作者名】

^{ハチ}
土管

【あらすじ】

死についての詩です。

何か感じるものがあれば幸いです。

曲がりくねった道を
走ってみた 夜には
君がトンネルの向こう側で
待ってるような気がした
だけ

水臙 腫れた 午前二時
綺麗な氷 装飾した自然は
どこか 寂しげな表情を
空から落ちてくる雪に乗せた

真っ暗な街は
忘れられた場所のよう
ここはどこなの？
今 それとも未来 過去

まだ
見えない
晴れ渡る空に浮かべた
一厘の花

押さえ込んでた感情が
あふれ出した その先に
光と影が 私のことを待っていてくれた
だけど そこから得たものは
泡となって消えてしまうようにと

願った あの日の 記憶
大切な もの たち

掴み取った 流れ星
堕ちてきた場所が 悪かったねと
優しく 微笑みかけてみた 偽造^{うつそ}

まだ

届かない
銀色へと続く架け橋
右手伸ばして

しまい込んでた感情が
あふれ出した その前に
思い出せない 記憶が縛り付けて
話せないの
ここで つなぎとめて私のことを
離さないで だけど 話して
笑って傍に居てよ

まだ
殻に籠もってる
らしいの
これで 終わりのかな

君と最後に交わした
言葉

剥がれ落ちてくように

目の前で 32倍速

遠い日の 記憶 思い出

全部 全部 燃やしてしまうから

あの日

忘れてきた感情を

今 言葉に出すから

聞いてよ 感じてよ

返事なんかいらないから

ああ だから 安心してね

大丈夫 ここから抜け出せるよ

ごめんね

また 記憶の中で

さよなら

（後書き）

読んでいただきありがとうございました。
いつかぼーかろいどで曲を作ってみたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8596t/>

cremation

2011年10月8日13時45分発行